

草に棲む一族

岩井 薫

*videmus si floruit vinea*——Ct.6, 10

森と沼

胡桃色のウツボカズラの蔭できみのヴァニラが籠に盛ったパンを数えている森

無限記号を額に刻印された髪切虫 彷徨う救命器と歯の無い円筒に姦された少女

帽子型付器の舌 鎌鼬の森 倭文しやの苧環わたまきの影 オオコガネアゲハの固形の沼

楕円形の自転車で母の織る倭文はた帯を捨てに行く隠り沼 枯れ行く浅茅生あさぢうのコカ・コーラの壘

眼差しと声

一族の食卓を囲む黒い椅子で頷きあう髪の毛と睫毛と睦みあう硝子の眼差し

庭園で静かに発熱して光を帯びる時計 乳房にあてた絞首刑死者の切り取られた手

広場の空の鯖雲を映しジプシー女が髭を剃る剃刀 月の眼球切開術が滲み出る鍵穴

空気の迷路で失踪した黒犬の耳に囁く赤く翳った家畜商人の声 溺死者の手の中の藁

柄付眼鏡で読まれる古びた神聖ローマ帝国刑法典 泣きはらした縄と斧へ血の悲鳴  
無窮に滴る眼差しは苦い核となった 真葛ヶ原の風に吹き散らされる核 葦の核

声は廃墟をめぐり旅の道連れは杖に一羽の木菟をとまらせた 聾の男 水飲み場ごとに沈黙があ  
り……

一族の掟を刻んだ黒い石板を砕いて沼に沈めると幾千の破片が蛭になった 蘭とジャスミンの交歓  
闇に溶解鏡の裏箔に塗り籠められた字母 追放された岸辺の将棋指しの王座 星座と暁の掟

大脳皮質からコルチ氏体まで彩色する人体模型師 鎌鼬に恋する少女が裸で睡む草叢

木の心臓を持つ一族の旅 眼鏡蛇の紋章の旗が翻る暁方のトラック 山羊祭までに口を蜜にする

旅

一人の空

詩歌

die 23 octobris, 1983.